

V. 特記事項

1. 外国語自律学習支援室 NINJA (Navigating an Independent Non-stop Journey to Autonomy)

外国語自律学習支援室（以下、「NINJA」という。）は、平成 25（2013）年度文部科学省私立大学教育研究活性化設備整備事業として採択され設置したものであり、現在はランゲージセンターが運営している。NINJA の目的は、外国語学習者である本学学生が、授業内で教わるだけにとどまらず、外国語の自律学習者へと成長することを目指したものである。

NINJA には、3つのエリア（セッションエリア、グループワークエリア、ラーニングエリア）がある。セッションエリアは、日本人・外国人教員のラーニングアドバイザーによる1対1の相談として、アドバイジングセッション、スピーキング・ライティングセッション、日本語アカデミックヘルプデスクを設けている。また、学生ピアチューターに英語の勉強方法や語学検定試験対策のコツなどについて相談できるピアチュータリングセッションもある。さらに、専攻する言語で様々な国籍の外国人留学生等とおしゃべりができる「Have a Chat」などにも利用されている。グループワークエリアは、学生が自由に動かせる什器を配置しており、グループでの課題学習やプレゼンテーション練習などに利用されている。ラーニングエリアは、個人又は複数人で自由に学習することができるスペースとなっており、学生のキャンパス内での重要な自学学習の場となっている。

2. DX（デジタル変革）・AI（人工知能）戦略

本学では、Society5.0に代表される、来るべきDX・AI社会において、建学の精神である「Pax Mundi Per Linguas（言語を通して世界の平和を）」を体現する学生を育成するための教育体系の設計と運用体制を戦略的に整備している。そのために、令和4（2022）年度より国際貢献学部で先行して、今後のDX・AI社会が求める素養を教育する授業を展開している。これらは、私立外国語大学の卒業生が社会で求められるデータ科学を中心とする知識及び多様な言語で自らの考えを発信するためのXR（現実世界と仮想世界の融合）技術の習得と、「人間力」がより重視される点に気づきを与えることを目的としている。

特徴的であるのが、言語とならぶ情報発信ツールとしてのXR技術の習得である。このためにMAICO（マルチメディア自習室）を改装し、本学ならではのXR教育体系の開発を進めている。具体的には、令和4（2022）年度にフィリピン・オープン大学との技術連携を実施し、没入型技術を取り込んだ独自設計の設備（U-Theater）を利用した更なる技術と教育体系の開発に取り組んでいる。また、eスポーツといった新しいキャリアへの対応を視野に入れた教育と運用体制の整備にも取り組んでいる。このMAICOを活用した教育の可能性については、「第10回国際言語文化学会」でのシンポジウムや「大学コンソーシアム京都第28回FDフォーラム」でのセッション、及び本学の「冬期オンラインFD講演会」で公表し、現在も活発な議論と意見交換を実施している。さらに、生成AIの利用を巡る対応が問われる中、本学卒業生が備えるべき「人間力」と具体的方法論を学生に涵養するための知識・運用体系の構築を令和5（2023）年度より取り組んでいる。

これらの取り組みを踏まえ、令和6（2024）年度の新教育課程では、全学でDX・AI社会への対応教育を展開し、我が国の私立外国語大学の模範となる教育モデルを構築する。